



「冬のじゅんぴ（冬をこしつぎのとしに「いのち」をつなぐ「つぎの春へのじゅんぴ）」

お早うございます。

運動会が終わり、休む間もなく80周年行事の練習で、桃五小の皆さんが力を合わせ、いろいろな準備をしている間にも、あたりの季節は少しずつ冬へと近づいていたのです。10月に夏日だなんて何年ぶりかのきろくだ、とか。台風が週末ごとに襲ってくるなんて、これまでにない異常な気候だ、とか。麻でまだコートを着るのは早いとか。いろいろなことを言われながらも確実に季節は移り、あたりのようすも急に冬めいてきました。

今日は「冬の準備」というか、「次の春を迎えるための準備？」の話をしてします。

春、夏、秋、と過ぎて今、まさに冬がやってこようとしています。冬が近づいてきた証拠はどんなところで見つけられるのでしょうか。これまでに比べて、あたりの様子はどんなふうに変わってきたでしょう。

私は、最近こんなことがあって、「もう冬だなあ」と、しみじみ思いました。

- いつも自分の家から近くの駅まで自転車で通っています。暗くなると自動的にライトのつく自転車を使っているのですが、今日は朝からライトがつかしました。どうしてでしょう。故障ではありませんよ。
- 今までと同じ時間なのにまだ真っ暗で、今朝は半分欠けたお月様が明るく光って見えていましたよ。
- あたりはまだ真っ暗で、駅だけがこうこうと明るくて、なんだか怖いようです。
- 自動車の屋根やボンネットが夜露でぬれて、水玉がいっぱいで、自転車を出すので横を通ったときぬれてしまいました。なぜこんなにぬれているのだろう。誰かが夜に水をかけたわけではありませんよ。
- 川べりの道を自転車で通っているのですが、ついこの間までは草が生い茂っていて川の流が見えませんでした。ところが、今日は河の流れも、泳いでいる魚もよく見えました。なぜだと思いませんか。川の水が増えたわけではありませんね。
- お湯が流れているわけではないのに、川の流れから、湯気のようなものが上っています。温泉がわいてるわけじゃないよね。寒いからかなあ。
- 駅のホームで電車を待っていると、おじさんもおばさんも、お兄さんもお姉さんもついこの間までの夏の服装ではなくなって、むくむくで洋服で太ってしまったようです。込んでくると身動きできないくらいにぎゅうぎゅうです。人が増えたわけでもないのに、みんなが太ってしまったのでしょうか。そんなわけないですよ。

こんなふうに、冬が近づき、寒くなってきて、夏の頃と比べて生き物も見かけなくなりました。

朝の日の出が遅くなり、夕方には、まだまだ明るかった時刻に、もうすっかり暗くなって木枯らしが冷たい夜です。お日さまの出ている時間の長さ、昼間の長さが短くなりました。でも、教室で勉強していると、夏の時期より、奥の方まで陽が当たるようになりました。夏と冬の違い、寒くなったり日が短くなったり。同も季節の違いは態様に関係がありそうだね。

冬。それは、陽の出るのが遅くなり、陽の沈むのが早くなるだから一日が短い。そして一年で一番寒い季節。

それにしても、冬の季節は寒さも厳しく、生き物にとっては生きていくのにとっても厳しい季節です。

だから人の暮らし方も変わるよね。洋服も冬のあった買い物、れ棒から暖房にかえて寒さから身を守る。でも、わたしたち人間は、今言ったように服をたくさん着込んだり、ストーブをつけたりして冬を乗りこえて来年にはまた春を迎えることができます。

でも、他の生き物たちはどうしてるんでしょう。いなくなっちゃったのでしょうか。死んでしまったのでしょうか。

それとも、寒さを避けて、どっかにかくれて「冬越し」をしているのでしょうか。

もし、死んでしまっていたら来年は、モンシロチョウも、アゲハチョウも、カブトムシもそのほかの小さな生き物たちはみんないなくなってしまうよね。

でも、来年の春になると、また、生き物たちは元気に現れてきます。どの生き物もきっとそれぞれに工夫して、冬の寒さの中で生き延びているのでしょうか。

では、動けない植物はどうしているのでしょうか。寒さから逃げられませんよね……。

秋になると木の葉が黄色や赤やきれいな色に変わります。これはどうしてでしょう。

(冬にむけて葉っぱを落としてしまうから。落ち葉はみんなきれいな色になってるよ。)

2年生、ありがとう。そうだね。冬になると木は葉を落とすよね。「動けない」木は、葉を落とす。葉っぱが色づき、やがて葉が落ちる。

木や草などの植物はね、私たちみたいに、ご飯を食べるわけではないけれど、やっぱり栄養がないと生きていけません。そこで、葉っぱをいっぱい大きくして、お日さまの光をいっぱい受けて、その葉っぱで栄養をつくるのです。春や夏はそれでいいのですが、寒い冬になると、大きな葉っぱは、逆に弱点になります。そんなものをもっていると、体力の無い冬は生き延びていけません。そこで、冬が寒い地方の木々は、冬に葉を落とすのです。そして、この葉を落とす前には葉っぱに栄養のうちの糖分というのがためられて、落とす準備をしていくのです。この、糖分のたまった葉っぱは赤や黄色や橙などの、きれいな色に変わりやすいのです。だから紅葉と言ってきれいな色に変化します。この、木が葉を落とす冬の準備、動けないからこうして力を使わずにうまく冬を生き延びる工夫をしたのですね。動ける動物さんたちは冬にどんな工夫をしているかな…。(くまさんはあなでねています。)(冬眠だよ、冬眠。あったかい穴で、栄養をためて、無駄な力を使わないで寝て冬を越すんだ。)1年生2年生ありがとう、よく知っているね。そう、動けない植物、木や草もこうして冬を越すために工夫しているんだよ。

朝お日様が出て明るくなるのが遅くなり、夕方は、逆に陽の落ちるのが早まって早く暗くなる。夜はすっかり冷え込むようになり窓などには夜露にぬれ、草や木々の葉も冬枯れて、あたりの見通しもよくなる。

町に行く人たちも、そして自分も、寒さに備えて暖かい服装に「衣替え」の時期がきました。人以外の、いろいろな生き物が冬に備えている様子。夏や春との違い。冬探し……。

桃五の皆さんで、冬をちょっと探してみませんか。生き物たちにとっては、寒い冬に備えるということは命がけです。皆さんの周りでいろいろな生き物の不思議見つけてみませんか……。

学校の校庭で直接不思議をさがしたり、学校図書館で生き物の冬越しのひみつを見つけたり、調べたりして、いのちの不思議をさがしてみましよう。

お話し終わります。

